対エルサルバドル共和国 国別開発協力方針(案)

2025年4月

- 1 エルサルバドルに対する開発協力のねらい
- (1) エルサルバドルは、中米地域の中心部に位置し、物流ハブを目指す地理的利点を有するほか、中米統合機構(SICA)事務局が設置され、地域統合において重要な役割を担っている。1人当たりの GDP は 5,580 ドル(2024 年、世界銀行)であり、高中所得国(LMCs)に分類されるが、国内の経済的貧困率は 2022 年時点で 26.6%(多目的世帯調査(Multipurpose Household Survey: MPHS))で、農村部と都市部の間には依然として経済格差がある。また、同国は天然資源に乏しく、特定産業(繊維・縫製業、コーヒー栽培)に依存しているほか、ハリケーンや地震といった自然災害に対する脆弱性も抱えている。加えて、メキシコを経由して米国に流入する移民の増加が、中米北部3か国(エルサルバドル、ホンジュラス、グアテマラ)共通の社会問題となっているが、現政権の政策により、2022 年から 2024 年初頭に、特にエルサルバドルからの移民の数は減少している。
- (2)こうした状況において、経済格差の是正、特に同国東部地域の貧困削減や自然災害に強靱で特定産業に過度に依存しない自立的・持続的な経済成長が大きな課題となっている。また米国移民問題については、その根本原因である貧困、治安、災害等の諸課題への対処が求められている。
- (3)上記の課題に対し、同国政府は国際パートナーの支援とともに既存の格差是正に取り組んでいる。現政権は、貧困、治安、自然災害など多くの問題の原因に対する包括的なアプローチを行っており、これらの措置が長期にわたって持続可能なものとなるよう、取り組みの強化を目指している。また、現在、同国政府はブケレ大統領の選挙公約集である「クスカトラン計画」に基づき、生産性の向上や雇用促進を通じた持続可能な経済成長の実現、市民生活の質向上や安全確保、平等かつ包摂的な教育の実現等を優先課題として取り組んでいる。
- (4)我が国が、過去約90年に亘る友好関係や国際場裡での良好な協力関係を踏まえ、 日本の知見や経験を活かして貧困削減、地方開発含む経済格差是正、防災等の開発課題の 取組、米州地域にも影響を及ぼす移民問題の緩和に貢献することは、二国間関係を強化す るとともに、中米地域及び米州地域の安定化を促進し、持続可能な開発目標(SDGs)の 達成に貢献するとの外交政策の観点からも意義が高い。
- 2 我が国の ODA の基本方針 (大目標): 自立的かつ持続的な開発の促進

エルサルバドル政府が取り組む重要開発課題のうち、我が国は、同国の自立的かつ持続的な開発を促進するため、経済の活性化、包摂的な開発、雇用拡大を中心に支援を行うとともに、防災・環境保全に対する同国の取組への支援にも努める。

- 3 重点分野(中目標)
- (1)経済の活性化と雇用拡大

エルサルバドルの東部地域は中米の中心部に位置し、3か国(エルサルバドル、ホ

ンジュラス、ニカラグア)にまたがるフォンセカ湾にも面する交通・物流の要衝として、地理的に重要な位置を占めているが、長年に亘る内戦の影響により開発が遅れている。天然資源に乏しく、国際競争力のある産業を持たない同国の経済を活性化させ、中米全域の経済成長を促すには、エルサルバドル政府にとって優先課題である東部地域の産業基盤を整備し、物流機能、電力供給力を向上させることが重要である。このため、地熱発電などを含む経済社会インフラの開発やこれまで我が国の支援により整備された港湾、橋梁、道路等の機能を最大限に活用するための協力を行う。また、中小零細企業の経営や生産性の向上等に向けた支援を通じ、更なる雇用の創出を図る。

(2) 持続的開発のための防災・環境保全

エルサルバドルでは、近年気候変動の影響によるとみられる風水害・土砂災害が多発しており、内陸型地震やプレート境界型地震も頻繁に起こっている。またマングローブ林を始めとする豊かな生物多様性と生態系を有していることから、これらの点にも留意をした上で、自然災害に対する脆弱性の克服が課題となっている。そのため、公共施設や住宅の耐震化を通じた都市機能の強靭化や気候変動対策に資する公共インフラの災害リスク管理、自然を基盤とした解決策(NbS)といった我が国の知見を生かして、防災能力の強化・環境保全に向けた協力を行う。また、防災や環境保全にかかる過去の協力の成果を活用し普及させる取組も進める。

(3) 包摂的な開発の促進

エルサルバドル政府は、全ての人々が恩恵を享受できるように、経済社会開発を進めようとしているが、教育機会の拡充にあたっては、初中等教育における教育環境の改善が、強靭な保健・医療体制の整備にあたっては、質の高い人材の育成や医療の質の向上が課題となっている。我が国は、基礎教育の普及、教育水準の向上とともに、保健分野の人材育成や医療体制整備のための取組を継続して支援する。加えて、市民の生活の質の向上や安全確保に向けて、社会サービスを提供するための基盤整備に資する支援を実施する。

4 留意事項

- (1) 中米地域では、地域統合に向けた取組が進められている。エルサルバドルには中 米統合機構(SICA)事務総局が存在し、その他にも多くの国際機関、国際支援団体など の事務所を国内に受け入れており、地域プログラムを主導しうる地理的メリットを有し ている。我が国は SICA に対し、生物多様性及び物流分野等での支援を実施しているが、 さらに米州開発銀行(IDB)等との援助協調の可能性も視野に、地域協力を推進していく。
- (2) ODA 予算の戦略的な運用の観点から、異なるスキーム・方式の案件を組み合わせて、総じて高い開発効果を発揮できるような案件形成に努める。

(了)

別紙:事業展開計画

対エルサルバドル共和国 事業展開計画

2025年4月 現在

1,8,9

基本方針 (大目標)	自立的かつ	寺続的な開発の促進										
重点分野 1 (中目標)	経済の活性を	とと雇用拡大										
	低かます。 という はいか はっぱん はいます ここの でした いっか はいか はいか はいか はいか はいか はいか はいか はいか はいか はい	は、競争力のある産業が欠如し、現在は外国投資の顕著な増加も見られず、右要因が経済成長のする。特に地方では雇用の受け皿がないために人材が外国に流出し、残された家族の多くは国外に存し、その大部分を消費に回して暮らす傾向にある。このような状況にあることから地域で産性まれにくい構造が存在しているところ、エルサルバドル国内の経済開発に資する案件を実施2019年大統領選挙の際に公約集として掲げた、国家の近代化を目指す「クスカトラン計画」内での創出や持続的な経済成長の実現を政権運営の主要課題として取り組む旨明記するなど、大成長促進・雇用創出に積極的に取り組んできている。は、かつての内戦の影響を強く受ける東部地域の開発が遅れており、米国等への不法移民の主いる。東部地域の貧困率は26%にのぼる一方、同地域住民は、貧困状態にない場合にも多くの家金に依存している状態にあり、産業が育つための基盤が整っていない。部地域を「忘れられた地域」と位置づけ、同地域に対する経済・社会インフラの整備を積極的明確にしており、道路や空港、鉄道、観水などの分野にかかる開発計画を掲げている。東部地域の後度実現には、投資・貿易を促進する産業の育成や他地域の後塵を拝する経済・社会インフラ地域の総合的開発を着実に進めていくことが求められる。雇用拡大の観点からは、東部地域に核を担う中小零細企業の経営改善及び能力向上を通じたこれら企業の活動の活性化が課題と	に、包摂的なお女政政の保証のは、1 の では、地域の では、1 の では	と、済性、中華及する。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	をの耳唇(支支线、含促層細含術援がむ進等企、協を国都にの業地力重の	資積の熱を点となる的産電の熱を点のをできる。	a 力 力 力 力 も の に 開 し し し に に に に に に に に に に に に に	を踏図会すいつ実まる開るく、施えた発。。一	、移民発 市民活動 の協力を 人間開発 ドナーと	巻生の根本原 動、及び中小 を展開する。 巻、③生産性 この連携を図	因の解決に重零細企業振動 ではいいでは、 の上に向ける りつつ、我が	≣献する。 興のための中央 て、有償資金協 が国は引き続き
	協力プログラム名	案件名	スキーム	2024 年度	2025 年度	実施期間 支援額 2026 2027 2028 2029 年度 年度 年度 年度 年度 (億円)					SDGs	備考
開発課題1-1 (小目標)					十尺	十八	十及	十尺	十尺			
(小日保)		工芸作物パリューチェーン振興プロジェクト	技プロ	以前							1, 8, 9	
で 産業基盤整備と生 産性向上		工芸作物パリューチェーン振興プロジェクト 人材育成奨学計画(R3)	技プロ無償	以前		_				1.70	1, 8, 9	
産業基盤整備と生				以前						1.70		
産業基盤整備と生		人材育成奨学計画(R3)	無償	以前							4, 8	
産業基盤整備と生		人材育成奨学計画 (R3) 人材育成奨学計画 (R4)	無償	以前						1.82	4, 8	
産業基盤整備と生	経済開発プログラム	人材育成奨学計画(R3) 人材育成奨学計画(R4) 人材育成奨学計画(R5)	無償無償	以前						1.82 1.98 2.11 2.64	4, 8	
産業基盤整備と生		人材育成奨学計画(R3) 人材育成奨学計画(R4) 人材育成奨学計画(R5) 人材育成奨学計画(R6)	無償無償無償	以前						1.82	4, 8 4, 8 4, 8	
産業基盤整備と生		人材育成奨学計画(R3) 人材育成奨学計画(R4) 人材育成奨学計画(R5) 人材育成奨学計画(R6) 人材育成奨学計画(R7)	無償無償無償	以前						1.82 1.98 2.11 2.64 51.37	4, 8 4, 8 4, 8 4, 8	
産業基盤整備と生		人材育成奨学計画(R3) 人材育成奨学計画(R4) 人材育成奨学計画(R5) 人材育成奨学計画(R6) 人材育成奨学計画(R7) サンミゲル市バイパス建設事業(II)	無償 無償 無償 無償 有償(ドル借款)	以前						1.82 1.98 2.11 2.64 51.37 (百万ドル)	4, 8 4, 8 4, 8 4, 8 9, 11, 13	

食料安全保障のための農学ネットワーク(Agri-Net)(2024~2026年度)

課題別研修他

重点分野 2 (中目標)	持続的開発	売的開発のための防災・環境保全											
	【現 ル は は い は い は い か ら	【開発課題への対応方針】 1. 廃棄物処理については、「地方自治体廃棄物総合管理プロジェクト」で発現した成果を、帰国研修りが中心となり開催するセミナー等により国内及び中米地域への普及させる。 2. 気候変動に対する緩和策と適応策の双方のパランスを取り、気候変動課題に取り組む。 3. 気候変動対策の一環として、有償資金協力及び技術協力を通じた再生可能エネルギー、省エネルギーの推進に資する協力を重点的に行う。 4. 防災分野では、これまでの「低・中所得者向け耐震住宅の建築技術・普及体制改善プロジェクト」など技術協力アセットを最大限に活用しつつ、「仙台防災枠組み」特に事前防災を踏まえ、「ヒト」に焦点を当てた協力で表して、公共インフラの強靭化を目的とする「構造物対策(モノ)」にも焦点を当てた協力、科技術やデジタル技術を活用した災害リスク評価/分析の促進や防災関連機関のガパナンス強化・実施能力向上を目指す。 カートを表していては、水資源管理をテーマに、当国の湖沼地域を主な対象としてに研修等の投入を可心とした取り組みを検討する。									省エネルギー コジェクト 」 柄協力アセッ 当てた協力を た協力、科学 強化・実施能		
開発課題2-1	協力プログラム名	案件名	スキーム	2024 年度 以前	2025 年度	実施 2026 年度	2027 年度	2028 年度	2029 年度	支援額 (億円)	SDGs	備考	
(小目標) 気候変動及び環境		資源分野の人材育成プログラム	課題別研修他	以削							13		
への対応	環境・衛生改善	GX人材育成プログラム	課題別研修他								13		
	プログラム	環境分野の課題別研修	課題別研修他								13		
		環境分野のJICA海外協力隊	JOCV								13		
		エルサルバドル海岸線における橋梁再建のための能力向上アドバイザー	個別専門家								9, 11		
		首都圏建物の耐震評価と耐震補強のための能力強化プロジェクト	技プロ							4.96	9, 11		
	防災体制の強化	道路アセットマネジメント技術の中核人材育成	課題別研修他								9, 11		
	プログラム	防災分野の課題別研修	課題別研修他								11, 13		
		防災分野のJICA海外協力隊	JOCV								11, 13		
		北中米太平洋沿岸部における巨大地震・津波複合災害リスク軽減に向けた総合的研究(SATREPS)	科学技術							3,94	11, 13		

重点分野3 (中目標)	包括的な開	発の促進										
	90. 7% (男性92. 5%、 90. 0%、13-17歳でに た第4回地域教育品に に課題がある児童のの の専門性深化、 ルスケーとが ルスケーとが ルスケーとが のを開せの が、成 が、の に に に の の の の の の の の の の の の の の の の	ジタル技術の活用、教育インフラの充実、インクルーシブ教育の強化などが挙げられる。	等を通じて、教育セクターの中核人材の育成を行う。 実施し 成でき 育の質 (JOCV) の派遣を行うなどフォローアップを行う。 3. 技術協力プロジェクトの成果を踏まえつつ、JICA海外協: (JOCV) の派遣を行うなどフォローアップを行う。 第機材・病院の維持管理能力の向上、母子保健対策や主要死因である非感染性疾患(NCD:NC)、教員 (Communicable Diseases)対策、無償資金協力(草の根・人間の安全保障無償資金協力)、JI 力隊(JOCV)、研修事業及び帰国研修員フォローアップなど複数スキームを連携させ、継続 援を実施する。また、援助の相乗効果を高めるために、JOCVによる、保健行政機関や大学なに連携した啓発活動を実施する。 EC発表 できない							ト協力隊 ウ人材強化、医 : Non 、JICA海外協 迷続的に保健支		
						実施	連期間	_		支援額		備考
開発課題3-1 (小目標)	協力プログラム名	案件名	スキーム	2024 年度 以前	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	2029 年度	(億円)	SDGs	
社会開発		デジタル教材製作推進計画	無償	_						6.61	4, 8	
		初中等算数・数学教育における学力評価に基づいた学びの改善プロジェクト	技プロ							3.00	4, 8	
		中南米災害医療マネジメント	国別研修								3	
		教育政策アドバイザー	個別専門家								4, 8	
	教育・保健改善 プログラム	子供の学びの改善	課題別研修他								4, 10	
		教育・保健・スポーツ分野のJICA海外協力隊	JOCV								3, 4	
		教育・保健分野の課題別研修	課題別研修他								3, 4	
		保健分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力	草の根無償							0.25	3, 4	
		上水分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力	草の根無償							0.46	3, 4	

その他	
-----	--

源」、16「平和」、17「実施手段」

			実施期間			+ 155 AT					
その他個別の家件	案件名	スキーム	2024 年度 以前	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	2029 年度	支援額 (億円)	SDGs	備考
	SICA地域協力アドバイザー	個別専門家				•••				17	8ヶ国対象
	中米地域物流ロジスティックス開発マスターブラン実施促進・モニタリングにかかる広域アドバイザー	個別専門家								8, 9, 17	6か国対象
	中米物流戦略回廊の道路アセットマネジメント及び持続性のための域内公共事業・運輸省技術的能力強化プロジェクト	技プロ		***					4.00	8,9	6か国対象
	SICA地域における越境生態系保全モデル強化	個別専門家								8, 9, 17	8か国対象
	SICA地域持続可能な観光/コミュニティベースドツーリズム振興のための能力強化プロジェクト	技プロ							2.00	8, 9, 17	8か国対象
	SICA地域におけるテリトリー単位の農業農村開発のための能力強化	国別研修								8, 9, 17	8か国対象

【SDGsの詳細】https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_pamphlet.pdf